

柔軟形ポリマーセメント系仕上材 RF弾性コート

RF弾性コートは、コンクリートの動きやひび割れに追従して伸びることにより、構造物の表面からの鉄筋コンクリート劣化物質の浸入を防ぐポリマーセメント系の高弾性被覆材です。

特長

- 鉄筋コンクリートの劣化原因となる、水分、塩分、炭酸ガスを遮断して、鉄筋を錆から守ります。
- 弾性に優れ、コンクリートのひび割れに追従して伸び、ひび割れ部からの劣化物質の浸入を防ぎます。
- 付着強度、付着安定性に優れます。
- トップコートを併用することにより紫外線による劣化から塗膜を守ります。

用途

- 塩害を受ける鉄筋コンクリート構造物の保護
- アルカリ骨材反応や荷重疲労のような動きのあるひび割れ面のコーティング
- 改修工事(リフリート工法)の仕上げおよび表面保護



製品概要・標準配合

- RF弾性コート粉体: 20kg/袋
- RF弾性コート混和材: 18kg/缶
- RF弾性コートトップコート: 16kg/缶

■標準混合配合

RF弾性コート粉体	20kg
RF弾性コート混和材	16kg

1) 標準配合に清水を0~1kgの範囲で練混ぜて軟度調整して下さい。

■1m²当りの標準使用量

RF弾性コート粉体	1.64kg
RF弾性コート混和材	1.31kg
RF弾性コートトップコート	0.4kg

性能例

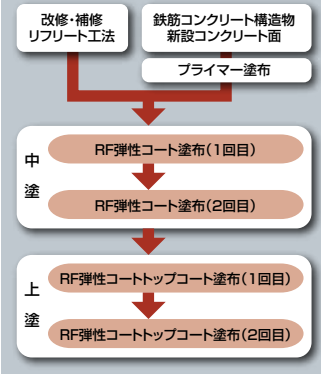
試験項目	試験条件	試験結果	日本道路公団規格(案)*
塗膜の外観	標準養生後	異常なし	塗膜は均一で、流れ・むら・ふくれ・われ・はがれのないこと
	促進耐侯性試験後	異常なし	白亜化はなく、塗膜にふくれ・われ・はがれのないこと
	温冷繰返し試験後	異常なし	塗膜ふくれ・われ・はがれのないこと
	耐アルカリ性試験後	異常なし	同上
遮塩性	標準養生後	$1.1 \times 10^{-3} \text{mg/cm}^2 \text{日}$	塗膜の塩素イオン透過量が $5.0 \times 10^{-3} \text{mg/cm}^2 \text{日}$ 以下であること
酸素透過阻止性	標準養生後	$4.9 \times 10^{-2} \text{mg/cm}^2 \text{日}$	塗膜の酸素透過量が $5.0 \times 10^{-2} \text{mg/cm}^2 \text{日}$ 以下であること
水蒸気透過阻止性	標準養生後	$0.6 \text{mg/cm}^2 \text{日}$	塗膜の水蒸気透過量が $5.0 \text{mg/cm}^2 \text{日}$ 以下であること
中性化阻止性	中性化促進試験後	0.0mm	中性化深さが1mm以下であること
コンクリートとの付着性	標準養生後	1.20N/mm ²	塗膜とコンクリートの付着強度が1.0N/mm ² 以上であること
	促進耐侯性試験後	1.11N/mm ²	
	温冷繰返し試験後	1.07N/mm ²	
	耐アルカリ性試験後	1.07N/mm ²	
ひびわれ追従性	標準養生後(常温時)	2.51mm	塗膜の伸びが0.4mm以上であること
	標準養生後(低温時)	0.24mm	塗膜の伸びが0.2mm以上であること
	促進耐侯性試験後(常温時)	0.63mm	

*試験方法は日本道路公団コンクリート塗装材料の規格(案)による。

施工概要

- ① 下地調整
下地の脆弱化した部位をはつりまたは高圧水で除去します。必要に応じて、不陸調整あるいは断面修復を行って下さい。
- ② RF弾性コートの混練
所定量の7割り程度のRF弾性コート混和材を入れた練混ぜ容器に、RF弾性コート粉体を攪拌しながら投入します。泡が入らないように注意して練混ぜた後、残りのRF弾性コート混和材を加えて均一になるまで十分練り混ぜて下さい。
- ③ RF弾性コートの塗布(1回目)
RF弾性コートは2回に分けて塗布して下さい。RF弾性コートはコテまたはローラを用いて塗布して下さい。
- ④ 乾燥
RF弾性コートを塗布後、充分乾燥させて下さい。(約2時間)
- ⑤ RF弾性コートの塗布(2回目)
コテまたはローラを用いて塗布します。
- ⑥ 乾燥
塗布完了後、RF弾性コートを充分乾燥させて下さい。(約24時間)
- ⑦ トップコートの塗布(1回目)
RF弾性コート乾燥後、RF弾性コートトップコートを塗布して下さい。
塗布にはローラーを使用して下さい。
- ⑧ 乾燥
トップコート塗布終了後、充分乾燥させて下さい。(約2時間)
- ⑨ トップコートの塗布(2回目)
RF弾性コートトップコートをローラーを用いて塗布します。

標準施工仕様



使用上の留意事項

- 施工前の下地の乾燥を確実にしてから施工して下さい。
- 練混ぜには、RF弾性コート混和材を用いて下さい。
- 練り混ぜには、アルミニウム製の羽根は絶対に用いないで下さい。アルミニウム部材が磨耗し、施工後に異常膨張する恐れがあります。
- 外気温が5℃以下の場合は、作業を行わないで下さい。やむを得ず施工する場合は、シート等の覆いの他、ヒーター等の保温措置を講じて下さい。
- 施工中および施工後早期に強風、日射、降雨、降雪等の影響を受ける恐れがある場合は、シートで覆う等の養生を行って下さい。
- 高湿度環境では塗膜が乾燥しないため、送風を行うなどして乾燥を促進して下さい。
- 暗渠等、日射が届かない場所以外では、紫外線劣化防止のため、必ずトップコートを施工して下さい。
- RF弾性コート粉体の保管は、雨露等がかからず湿気の少ない場所を選び、パレット等を敷いて床面から離れた状態で、ビニールシート等で覆って下さい。
- RF弾性コート混和材・トップコートの保管は、直射日光を避けるとともに、凍結を避けるために5℃以上、変質などによる劣化を防ぐために40℃以下で保管して下さい。
- 廃棄する場合は、産業廃棄物として処理業者に廃棄をご依頼下さい。
- 排水等は、水質汚濁防止法等の関連諸法令に従って廃棄して下さい。

安全上の注意事項

- 本製品は、カタログに記載されている方法でご使用下さい。
- 本製品は、セメント同様にアルカリ性を示します。ご使用の際は、眼、鼻、皮膚および衣類に触れぬよう保護具(ゴム手袋、保護めがね、マスク等)を着用の上、ご使用下さい。
- 誤って眼に入った場合は、直ちに清水にて十分洗浄した後に速やかに医師の治療を受けて下さい。
- 誤って飲用了場合は、無理に吐かせずに清水で十分に口内を洗浄した後に、速やかに医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着すると肌荒れを引き起こすことがありますので、付着した場合は直ちに水洗いして下さい。
- 作業後は、手洗い、うがいをして下さい。
- 本製品の取扱いに関して、詳細な内容を必ず、安全データシート(SDS)でご確認下さい。

このカタログの記載の諸性能および諸物性は、環境条件や使用条件などによりカタログと異なる結果を生じることがあります。十分にご検討の上、ご使用頂きますようお願い申し上げます。このカタログの記載内容は、予告無しに仕様や取扱いを変更することがありますので、ご了承下さい。

 **太平洋マテリアル株式会社** <http://www.taiheiyo-m.co.jp>

営業本部 機能性材料営業部

〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー15階 TEL.03-5832-5217

北海道支店	〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西5-1-3 日本生命北門館ビル	☎ 011-221-5855
東北支店	〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町1-1-1 大同生命仙台青葉ビル	☎ 022-221-4511
東京支社	〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー16階	☎ 03-5832-5241
中部支店	〒453-0801 愛知県名古屋市中村区大塚3-1-18 名古屋KSビル	☎ 052-452-7141
関西支店	〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島4-3-2 類ビル4階	☎ 06-7668-6001
中国支店	〒732-0828 広島県広島市南区京橋町1-23 三井生命広島駅前ビル	☎ 082-261-7191
四国支店	〒760-0050 香川県高松市亀井町7-15 セントラルビル	☎ 087-833-5758
九州支店	〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神4-2-31 第2サンビル	☎ 092-781-5331